

第1回京丹後市文化財保護審議会

- 1 開催日時 平成18年4月26日(水)午後1時30分～午後4時20分
- 2 開催場所 大宮庁舎4階第2会議室
- 3 出席者 田中光浩委員、今村純訓委員、平井久夫委員、
糸井秀太郎委員、吉岡英一委員、城下圭介委員、増田馨委員、
藤田泰弘委員、富澤孝雄委員、足達礼三郎委員
- 事務局 引野教育長、水野教育次長、祝前哲夫館長、黒崎課長、吉田補佐、岡林主事、橋本技師、小山主事

4 内 容

- (1) あいさつ
- (2) 委嘱状交付
- (3) 委員紹介
- (4) 会長・副会長選出
- (5) 議事
 - ① 平成18年度文化財関係事業について
 - ② 京丹後史博士育成事業
 - ③ 普及啓発事業
 - ④ 史跡整備検討委員会
 - ⑤ 市史編さん事業
 - ⑥ 民俗資料整理関係事業
 - ⑦ 網野郷土資料館検討について
 - ⑧ 丹後震災記念館活用計画について
 - ⑨ 旧口大野村役場活用計画について

5 公開又は非公開の別

公開

6 要 旨

● あいさつ (引野教育長)

合併して2年が経過。3年目に入り本日、新委員の委嘱状を交付させてもらう。地方自治法改正に伴う指定管理者制度が導入され鳴き砂文化館が指定管理に移行した。掛津琴引浜の取組と天然記念物指定の調査がされており、今後地元協議を進める。18年度の計画についての意見をいただく。16年度の文化財保護法の改正により文化的景観の項目が追加された。民間の組織、団体等と連

携して取組を進めることも必要となっている。

● 委嘱状の交付

教育長より各委員に交付

● 委員紹介

各委員、資料館長より自己紹介

● 会長・副会長の選出

(事務局) 会長、副会長の選出については、京丹後市文化財保護条例施行規則第6条より委員の互選により選ぶとしている。委員の推薦等があればお願いしたい。

(委員) 事務局の方で考えがあれば言ってもらいたい。

(事務局) 委員の皆様、おのおの仕事を持ちお忙しい方ばかりであるが、検討の結果、会長に平井委員を提案するが、いかがでしょうか。

(委員全員) 異議なし

(事務局) 皆様の拍手で確認したい。

(拍手全員)

(平井会長) 志水会長の後で、大役ではあるがまとめ役として受けさせて頂く。皆様のご協力、事務局の側面的なバックアップをお願いしたい。

(事務局) 副会長の選出に移りたいと思う。平井会長の方からあればお願いしたい。

(平井会長) 昨年まで副会長をしていた増田さんに引き続いて副会長をお世話いただけないか。

(事務局) 増田さんに副会長ということができましたがいかがでしょうか。

(委員全員) 異議なし

(事務局) それでは副会長に増田さんをお願いしたいと思います。

(増田副会長) 指名ですので体調は悪いが、引き続きつとめさせてもらう。

(事務局) それでは議事に移る。本日は最初の会議であり議事進行は事務局で行いたいと思う。

議事 ①平成 18 年度文化財関係事業について説明

(事務局) 最初に平成 18 年度文化財関係事業について報告する。

郷土資料館管理運営事業では週 2 回開館の展示及び賃金等の維持管理費用等を計上。古代の里資料館管理運営事業では、指定文化財 160 件の文化財等の展示活用等を図る。18 年度より身障者の減免を含めた入館料の改定を行った。琴引浜鳴き砂文化館管理運営事業は 4 月 1 日より指定管理にて、掛津区が管理運営を実施している。文化財保護審議会委員設置事業では年 4 回の審議会を予定、管外の先進地の文化財視察研修も計画。市指定文化財の諮問審議での審議答申

をお願いしたい。文化財保護普及啓発事業では文化財博士育成事業（京丹後史博士育成事業）、小牧源太郎生誕百周年記念展、春季企画展、震災記念 80 周年などを予定している。指定文化財等管理事業では京丹後市指定文化財等補助金など社寺等文化財保全事業等の事業実施に係る市の補助金の交付、国等の指定史跡等の草刈、アベサンショウウオの委託料を計画している。市史編さん事業は 17 年度にスタートし、今年が 2 年目で 8 つの専門部を組織し事業を進める。文化財整理事業については、旧町で集めた民俗資料の整理等で、18 年度は峰山と弥栄分が中心、また埋蔵文化財の整理事業を予定。出土遺物保存処理事業については、鉄器の保存処理を山城郷土資料館にて実施予定。稲葉家文書整理事業については 4 年目で年に 4 回程度で 1 回約 25 人前後の調査予定。遺跡整備事業については、16 年 11 月に史跡整備検討委員会を組織しており、秋に答申が出される予定。神明山古墳地形測量準備費として、草刈、水準点の移設作業を実施、測量は大阪市立大学が実施。赤坂今井墳丘墓墳丘の緊急保全措置。文化財一般経費については文化財保護関係団体の補助金、文化財保管維持管理費等を計画している。

議事 ②京丹後市博士育成事業の説明

（事務局）京丹後市博士育成講座については、各地域で講座を設定し地域の文化財を学び合わせて文化財のサポーターを育成する内容で、3 年程度を予定している。平成 18 年度分は受講生のニーズが把握できないので、事務局にて講座を設定し、次年度以降は受講生のニーズを考えて講座を開催予定。市のお知らせ版を利用して受講生を募集、地域ごとに会場を設けて 4 講座を実施予定。1 講座は共通講座を設定し、後 3 回はそれぞれの旧町ごとの関連の深い講座を設定する。資料代として 1 講座 100 円を徴収する。受講数に応じて認定書を出すなどで講座を計画する。

議事 ③普及啓発事業の説明

（事務局）普及啓発事業では資料の通り計画している。丹後古代の里資料館では、4 月～10 月にかけて「函石浜遺跡とその発見者たち」、「平成 17 年度新指定文化財」、「絵図からみる峯山城下町」を予定。10 月から秋期特別展示として「久美庄から組み浜へー中世の久美浜ー」を予定、丹後震災 80 周年として、「震災を忘れない～但馬・丹後震災の記憶」を開催予定。

網野郷土資料館では、「衣服の虫干し」と「繭と織物～実演と体験」を開催予定。また、小牧源太郎生誕百周年記念展を 10 月 1 日から大宮ふれあい工房にて開催予定。

議事 ④史跡整備検討委員会の説明

（事務局）史跡整備検討委員会については、多くの史跡について活用を図るた

めにマスタープランの作成が必要であり、委員会を立ち上げてプランを作成する。資料はその経過や内容について抜粋したものである。17年1月に第1回の委員会を開催し合計5回開催した。検討委員会の内容については京丹後市のホームページや各市民局に閲覧用の資料が備えてある。先日の委員会では「丹後王国」という表記について意見をいただいた。京丹後市まるごと歴史と文化の野外博物館という構想については異論がなかった。文化財博士の取り組み、情報発信については、ホームページの充実をすぐにでも行うべきという意見があった。博物館展示については展示を充実させることが必要。学校との連携については、次世代に郷土のことを伝える意味でも重要。副読本の作成なども必要である。5月23日に6回目の検討委員会を開催する。

議事 ⑤市史編さん事業の説明

(事務局) 市史編さん事業について、資料に基づき平成17年度京丹後市史編さん事業報告と平成18年度市史編さん事業計画について報告。平成17年度から事業開始して市史編さん委員会を立ち上げている。現在、市史編さんの下準備で資料の所在確認等を実施している。久美浜町内の民俗調査、仏像などの調査を実施しており、過去に報告されていない仏像も確認している。これまで、明治以降の資料調査が余りされていないのが現状であり、これらの資料調査は今後の課題である。京丹後市博士講座や地元で、その調査成果などの報告ができればと考えている。先日、旭地区で調査報告会を実施した。

(事務局) 以上までで質問や意見があればお願いしたい。

(委員) 出土遺物保存処理事業で鉄器の保存処理を計画しているが、鉄は一度保存処理すると分析するのに精度がでないということを聞いており、丹後については鉄は大きな要素であることから、貴重なものは分析してから保存処理を行って欲しい。史跡整備検討委員会の資料の中で、文化財ボランティアガイドの育成があるが語りべなどを想定しているのか。京丹後史博士育成事業との関係はどうか。また、この事業は京都市などが行っている検定などを想定しているか。

(事務局) 市民の人にガイドをしてもらうことは、来訪者や観光客に説明をしてもらうことは必要だと思うが、京丹後史博士の取り組みは、ガイドの育成とを目的としておらず、種々の資料から地域の歴史をどう読み取るかということを中心に想定している。

(事務局) 事業の趣旨としては郷土愛を高めるものであり、自分達の村の歴史を知ってもらい、それが郷土愛を育むことになればと思う。

(事務局) 京都市の検定についての話があったが、現在、丹後広域キャンペーン協議会、丹後広域振興局の商工観光室が中心になり丹後ふるさと検定を予定

している。18年度にテキストを作り、19年の10月にふるさと検定実施予定である。

(委員)「学ぶ」の後に、「考える」という流れで進めて欲しい。

(委員)丹後王国や古墳時代の前段として、それまでの話が欲しいと思う。概略でもよいから、古墳時代までの話が必要だと思う。

(事務局)全体の話はどうするかということだが、本年度は丹後王国論の話を予定している。今回の講座では基礎的な内容が充分でなく、今後の課題である。

(委員)丹後が分国されて成立したのは713年であり、丹後の成立以前に丹後王国と言う言葉の使い方も含めて、この用語は認められた言葉か。

(事務局)「丹後王国論とは何か」ということで、その用語の使い方も含めて、どういう意見があるのかということを講座で話す。

(委員)講座で話す場合、都出先生の古墳の形態論を勉強した上で、講座を組むことが必要だと感じる。

(委員)博士育成講座については博士でない人が博士を育成することが問題だと思う。それと、25講座を受講すれば、内容を理解しようがしまいが博士号を取得できるというのは使い方も検討すべき。

(委員)この講座の博士という用語は、個人的にはそんなに深く考えなくても良いのではないかと思う。

(委員)教育委員会の文化財で刊行された図録、パンフレットに読み違い等があるのが目に付く。丹哥府志の読み方も、「たんかふし」でなく「たんごふし」ではないかと考えている。また、受講生について、大勢集まる場合は良いが、20名を割るような場合には、市外からも募集してはどうか。

(委員)博士講座ということだか、言葉としては深く考えなくてもよいのではと思う。そして、余りむずかしい高度なことを最初から言っても理解できず、1年やってから次を考えるくらいでよいのではないか。

(事務局)各町ごとに4回という限られた回数であり、博士というタイトル、事業の趣旨としては各町の文化財を勉強して学ぶことにより、自分達の町の郷土愛・愛着が深まり、町づくりにつながっていけばと思う。京丹後市の博士、学者をつくるという趣旨ではない。併せて地域の人と職員も一緒になって勉強させてもらおう。

(委員)講座のネーミングについてもう少し検討した方がよかった。文化財の裾野を広げるというのも趣旨は良くわかる。ただし、講座内容を見ていると民俗文化財の内容が抜けている。市史編さんでも取り組んでおり1年目から取り組むことが必要。

(委員)今年度は啓発事業として、位置づけて取り組んでいけばよい。1年目

は事務局が考えていたものをやっていくのも1つの方法だと思う。次年度以降、内容の検討をしてはどうか。

(委員) 教育委員会や企画政策部、あるいは商工会、京都府もそうだが、さまざまなところが個別に文化財に関わる事業を実施している。全体のグランドデザインがあり、その中で各部署が担当するという動きがあればもっと良いと思う。

(委員) 久美浜でも仏像や民俗などいろんな調査に入ってもらっているが、地区の公民館で管理している仏像なども多くあり、計画性を持った調査が必要だと感じる。そうすればもう少し協力できる。

(委員) 文化財のことを良く勉強している優秀な人、よく理解できている人も、そうでない人も、最初から優秀なもの、完全なものを求めるのではなく、いっしょになり汗を流して作り上げるということが大切だと思う。自分も本を出したが、誤字、脱字はたくさんある。それは2の次にしても本を出すということに意味がある。大学教授でさえ間違えることもあり、いっしょになり協力することが大切だと考える。

(委員) 民俗資料の整理について、これまでの文化庁の整理区分に従ってやるかということと、地方ごとに使用されていた名前などがあり、その名前については俗名でよいし、そのことが地方では重要だと思う。

(事務局) 現在のところ、これまでやってきた分類方法で整理する予定としている。詳しい内容については相談して決める。

(委員) 府の文化財保護指導員をしており、大学の調査などがある場合には情報を知らせて欲しい。地域のことはもっと知りたいとおもうので、連絡をしてほしいと考える。

(事務局) 文化財の場合、学術的な面と観光としての活用という面がある。商工観光の場合は、文化財を観光面で何とかしていきたいということを考えており、その連携も地域の振興を考えると必要だと感じる。

(事務局) ここで、5分間休憩する。

議事 ⑥民俗資料整理関係事業の説明

(事務局) 民俗資料については現在、旧町時代に収集した資料が7ヶ所に未整理のまま保管してある。その整理事業を今年度から着手する。旧成路分校には、旧五箇小学校と吉原小学校と久美浜作業所(旧佐濃北小学校)の資料、旧周枳小学校には大宮町文化財保存会の収集資料、旧高嶋寮には宇川小学校、浜詰郷土資料館保管資料、旧大宮町保管資料、丹後古代の里保管資料、弥栄資料館には弥栄町で集めた資料、旧久美浜町役場には佐濃小学校、川上小学校の資料が保管。あと十楽倉庫と網野郷土資料館に保管している。今年度は旧成路分校と弥

栄町資料館保管分を予定。

議事 ⑦網野郷土資料館検討について説明

(事務局) 網野郷土資料館検討について、総合計画の中に網野郷土資料館の整備なども計画にある。民俗資料館としては総点数 8,000 点余りの資料を有する資料館だが、老朽化が進んでいる。平成 18 年度に改修や展示のプランを立てる必要がある。この網野郷土資料館では民俗資料のほかに、京丹後市には伝承・伝説、祭りなどのすぐれた資料があり、これらの資料を展示する必要がある。俵野廃寺の資料、養蚕関係の資料、農具、消防防災資料、鉄道関係などの資料があり、特徴のあるこれらの資料の展示方法、展示構成について、資料館の改修とあわせて検討する必要がある。

議事 ⑧丹後震災記念館活用について説明

(事務局) 丹後震災記念館活用計画について、平成 17 年に府の指定文化財となる。京都府の技師一井九平氏の設計、当時の設計図書も残る。現在、社会体育施設として活用されている。今後の建物の活用計画を立てる必要あり。府の指定になったことより、自動火災報知機の設置が義務づけられている。老朽化で雨漏り等の改修が必要。

議事 ⑨旧口大野村役場活用計画について説明

(事務局) 旧口大野村役場活用計画について、平成 11 年に国登録文化財として指定。昭和 4 年頃に建造されたモダンな木造建物で、旧口大野村役場として建てられ、大宮町役場、口大野村公民館、金融機関、商工会館として活用されてきた。現在は使用しておらず、老朽化が進み、使用するためには改修する費用として 400 万円程度必要。2 階の議場部分は展示スペースとして活用できる。1 階の事務所等は、団体の使用なども検討中。2 階については、玩具や文書など分野を限定して展示等を検討し、建物の活用を検討する。

(委員) 民俗資料の整理については、廃棄ということもあり細部の写真を撮られたい。記録保存にもなる。網野資料館の織物関係の資料については弥生時代の織物なども、紡錘車が出土しており、木簡の縄等の資料もあり古代からの一貫した展示を検討されたい。旧口大野村役場の玩具の資料という話がでたが古い絵本も展示したらどうか。

(委員) 網野郷土資料館は、展示するものが多くて、手狭になっている。

(委員) 網野郷土資料館は、現在の建物の改修だけでなく、収蔵庫が必要である。

(委員) 網野郷土資料館は、昭和 20 年の建物であり建物も価値があるが、収蔵庫がまず欲しいと思う。貴重なものもあるが火災等も心配である。

(事務局) 網野郷土資料館では旧町の時代に整備のための計画等を検討してお

り市の総合計画に要望している。民俗資料の整理等の課題もあり合わせて検討する必要がある。

(委員) 旧口大野村役場の資料については、地元との協議が必要に思う。

(委員) 新聞の切り抜き資料を配布してもらっている。これは、資料館や文化財関係の建物を建てる場合、看板の付け替えはすぐできるが、内容が伴わないという内容であり、「教える」、「学ばせる」から「楽しむ」、「発見する」、「発信する」ということが大切で、今後の参考にして欲しい。

(委員) 京丹後史博士講座は旧町ごとに 20 名の定員なのか。

(事務局) 旧町ごとに募集するというのではなく、希望者は区域の枠を超えて受講したい講座に参加できるように募集する予定。

(あいさつ) 水野次長

本日の審議会で、平井会長、増田副会長を決定していただいた。委員の皆様から数々の意見をいただいた。博士という名称をめぐっての意見もあり意見として真摯に受け止める。一方、社会教育、成人教育などで市民に対する各種事業も行っており、市民の目線にたった親しみやすい事業にしていくという面もあり理解して頂きたい。今後の事業の進め方について、全体構想を立てて進めていく、体系的に計画的に進めていく、他の部署との連携が必要であるという意見をいただいた。今後、これらを考えながら進めたい。今後とも、協力よろしくお願ひしたい。